

#なつのおもいで



夏の終わりに笑い声がたくさん響いた夜でした。

「わあーすごーーい!」「綺麗だね～」とあちこちで笑い合う声。花火を1番楽しみにしていたトミさんが、ワクワクしすぎて昼寝もできず、本番直前にウトウトしてしまう姿がなんとも可愛らしくて笑い合ったり。打ち上げ花火になかなか火がつかなくて焦る職員の姿に笑っちゃったり。

「楽しくて子供にかえっちゃうんだよ」と目をキラキラさせるハツさんの姿が嬉しくて、思わず笑顔が溢れたり。

そんな夏の日の思い出です。

花火の後は
みんな
でかき氷



#夕涼み会 #打ち上げ花火にワクワクドキドキ #職員も一緒に楽しむ #季節を感じる

玉樹だより

Tamaki Dayori

2023.11
vol.63

普通に暮らす幸せを1番大切にしている
特別養護老人ホーム玉樹の広報誌



Instagram



HP

Story

変わらない関係



「この間来たばかりなんだけど、会いたくなっちゃったから来ちゃった。」と旦那様。「やっぱりね♡」とほほ笑む奥様。そんな海谷様ご夫婦を見ていると心がホッコリと温かな気持ちになります。

ふたりは恋愛結婚。奥様が働いていた三越に、大学生の旦那様がアルバイトに来て出逢いました。旦那様は当時バンドマン。奥様はライブやダンスパーティーで演奏する

姿をよく見に行っていたそうです。

結婚して57年。楽しこと、嬉しいこと、辛かったこと、色々な事がある中でずっと一緒に寄り添ってこられました。元気な頃は喧嘩もたくさんしたけれど、50歳を過ぎてから病気を患い、その度にお互い支え合ってこられたそうです。

ここ数年は、環境や体力的にもふたりで大好きな旅行に出かけることが出来ませんでした。そこで、ご夫婦で一緒に出かけられる機会を作りたいと、秋のバスツアーにお誘いしました。4年ぶりの旅行。写真を撮ると幸せになるという木があり、撮りますか？と声をかけると、旦那様は「もう幸せです♡」と笑っておられました。

いつも旦那様が「みっちゃん！」と呼ぶと「は〜い」と笑顔で手を振る奥様。出逢った頃から57年ずっと変わらない関係です。旅先でのふたりの幸せそうな様子は、見ているこちらも本当に幸せな気持ちでいっぱいでした。これからも、少しでもふたりで過ごす時間を大切にできるようなお手伝いをさせていただきます。

文：ケアワーカー 飯村慶恵

Story

サービスセンターじゅげむ

あきらめていませんか？ ～トイレでスッキリ排泄～

オムツでの排泄は、トイレに座るような前傾姿勢を保てないため排便に必要な腹圧がかかりにくく、周りの環境も気になって我慢してしまい、どうしても便秘になりがちです。

ユキさん（仮名）は、脳障害のため介助が必要で、ご家族だけではトイレ介助が難しく、排便のタイミングもつかめず便秘がちでした。そこで週3回のじゅげむ利用日に、決まった時間にトイレに座る取り組みを始めました。1日3回定時のトイレ誘導を続けていくうちに、じゅげむに到着してすぐのトイレのタイミングで毎回排便が見られるようになりました。ご家族は「じゅげむで出る（排便する）習慣が出来たみたい」と、とても喜んで下さりました。

同じように在宅で排泄の悩みを抱えているご利用者、ご家族は少なくありません。骨折が原因で約1年入院していたキヌさん（仮名）は、体力が落ちてしまい自宅でもベットに横になっている事が多く、オムツ対応で便秘気味です。週1回の訪問看護で摘便（直腸に指を入れて便を排出させ

るケア）をしています。キヌさんもじゅげむでトイレに座る習慣が出来ればもしかして…と期待し、まずは1日1回、昼食後にトイレに座ってみる事から始めてみませんか？と伝えるも「職員さんに迷惑かけるからいいよ」との返事。

入院中の約1年間ずっとオムツだったので、それが当たり前になってしまい、トイレ介助してもらうなんて申し訳ないと思っている様子でした。ユキさんの成功例も伝え、一度だけ試してもらえないかお願いし、いざ便座へ座ってみると…、1年ぶりにトイレで排尿できました！キヌさんは「久しぶりに（トイレで）出たよ」と満面の笑み。とても嬉しい瞬間でした。現在はご自分から「トイレに行きたい」伝えて下さるようになり、【トイレに座って排泄する】という当たり前のことがとても大切だと改めて感じました。

まだトイレでの排便はありませんが、キヌさんの便秘解消とご家族の負担軽減を目標に、継続して取り組んでいきたいと思えます。

文：ケアワーカー 塚田香織

イベント

長寿のお祝い

2023.9.18

4年ぶりに祝い歳のご利用者家族を招待して、敬老会を開催することができました。
※スマートフォンのカメラから、QRコードを読み取ると動画を見ることができます。



はたらく人

わんつかめぐさがり

(津軽弁：ちょっぴり恥ずかしがり屋さん)



吉川 秀貴 (法人本部 本部長 勤続18年)

○マイブーム：配信サイトで海外サッカー、あすけん(アプリ) ダイエット

○どんな人？

青森県出身。すぐやる派(判断や実行が早い)。きれい好き。

○本部長から一言

11月1日で玉樹が始まってちょうど18年。ずーっと事務所にいます。玉樹ではデスクワーク、会議や打ち合わせをすることが多いので直接利用者の方と関わることは少ないですが、皆さんの「普通に暮らす幸せ」を日々願い精進していきます！

打ち解けると意外におしゃべり



石黒 成美 (特養 なでしこ荘、ケアワーカー歴2年)

○好き：名探偵コナン、ゲーム、歌を唄うこと。

○どんな人？

真面目でまっすぐ頑張り屋。人見知りだけど、好きなことを語るとニコニコ饒舌。内に秘めた介護への熱い思いあり。

○石黒さんから一言

まだまだ失敗だらけで未熟なところもありますが、お年寄りに沢山笑顔になってもらう為、そして楽しく過ごしていただくため一生懸命頑張っていきたいと思ひます。

開所からずっとオムツから布パンツへ



玉樹では入居時にご利用者一人ひとり、おおよそ 1 回の排尿量を計測しています。尿量によって最適なパットを選び、可能な限り布パンツへの変更を提案させていただきます。長い期間、オムツを使用されている方のご家族はその提案に大変驚かれます。ご利用者も「布パンツで大丈夫なのかな？」と不安になってしまう方もいますので、少しでも不安を和らげられるように、分かりやすく説明させていただきます。ご家族の中には「大丈夫ですか？職員さんに迷惑になってしまうのではないですか」と気遣って下さる方もいらっしゃいます。

でも、布パンツは大変ではないんです！むしろ、布パンツに変わることでその方の気持ちに変化が現れ、【自信の復活】にも繋がります。

排泄は人としてのプライドの部分なので、本当なら最後まで人の手を借りず自分でやりたいことだと思います。お身体の状態にもよりますが、布パンツに変わることでトイレにも座りやすくなります。立てなくても歩けなくてもトイレに座る事で、失敗しないでおしっこが出る。うんちが出る。そんな些細な事が関わる私たちの大きな喜びややりがいに繋がっています。トイレでおしっこが出る・うんちが出ることを一緒に喜べるという事は、その方が生きていてくれることを喜べる事だと思います。生きる意欲へ繋がる為に必要なアイテム、これからも玉樹は布パンツにこだわりたいです。

文：生活介護支援課 課長 高橋 奈美子

地域福祉

夏休みに福祉体験してみよう！

つむぎ
プロジェクト
玉樹×地域福祉



今年も、夏休み福祉チャレンジ教室を開催しました。

小・中・高校生に、福祉、介護、地域について知っていただき、学びの後も関心を持って一緒に考えていく仲間になってもらいたいという思いから始めた事業です。

社会貢献活動では、玉樹のご入居者でもある社会貢献クラブのメンバーと一緒に、整理した資料（使用済み切手2038枚・使用済みプリペイドカード800枚）を茨城県社会福祉協議会へ寄付していただけるようお願いに八千代町社会福祉協議会へ伺いました。

買い物支援体験では、地域の現状や車イスの介助方法などを学び、ウキウキショッピングバスの活動にボランティアの方々と一緒に参加してくれました。

施設でも地域でも、高齢者が住む場所それぞれに暮らしがあります。誰かが関わることで、その暮らしが楽しくなります。そのことを子どもたちは今回の体験で学んでくれたようで、私たちも大変うれしく感じました。

文：コミュニティソーシャルワーカー 染野 ユミ